

「亜熱帯海域におけるリン酸およびリン酸モノエステルの時系列変動」

- 中村 有希 (東大大気海洋研) [17F13-01]

「地球温暖化に伴う海洋生物生産の将来変化 — CMIP5 モデル結果を用いた解析 —」

ポスター発表(2件)

- Jing ZHANG (愛媛大沿岸セ) [17F11-P07]
「Effect of Nutrients with Different Origins on Nutrient Inventory and Primary Production in the East China Sea」
- 山口 凌平 (東北大院理) [17F12-P02]
「Potential energy anomaly を用いた季節躍層発達の診断」

アカデミア メランコリア (第17回) (若手のコラム)

創価大学大学院工学研究科 博士課程 菅井 洋太

はじめまして、の方が多いと思います。創価大学院博士課程の菅井と申します。今回、学部同期である北大大学院の吉田君から指名してもらい、執筆の機会を頂きました。コラムの内容は自由とのことなのですが、「あかみあめらんこりあって何？」という疑問がまず湧いてきました。調べてみると、「melancholia 【名】(病理)鬱病」と書いてあり、何を書けばいいのかわからなくなりました。アカデミアメランコリアという内容に合っていないかもしれませんが、今回は私の研究テーマとこれまでの研究生活について書きたいと思います。



私は、「大気—海洋間のガス交換における海面マイクロ層の役割」をテーマに研究しています。海面マイクロ層(sea surface microlayer, SML)とは、海洋の最表層わずか1 mm未満の層のことで、有機物・微生物の蓄積や海面マイクロ層に特異的な微生物群集の存在などの報告がある非常に興味深い層です。ただ、方法にもよりますが、サンプリングが大変です。厚さ数百μmの海水を数L集めるということになると、サンプリングに数時間かかることもあります。また、降雨や強風などの天候状況により、海面マイクロ層の性質が大きく変わってしまいます。現在、私は「海面マイクロ層では光化学的・微生物学的(主に細菌群集による)な気体の生成・消費が活発に起きているのか?」、「それが大気—海洋間のガス交換にどのような影響を与えているのか?」ということに興味を持っています。

私の研究室では、横浜国立大学大学院の環境情報研究院と共同で1995年から相模湾沿岸で調査を実施しています。私も学部2年のときから毎月乗船させて頂いて、調査も今年で7年目になりました。私はほとんど船酔いをしないので、いつもフィールド調査を楽しんでいます。また、1ヵ月ほどの航海に何度か参加させて頂き、船での生活を経験したり、異なる研究分野の調査方法を知ることができました。学会発表について言えば、私はこれまで国内外で十数回の学会発表を経験しました。自分の研究を知ってもらうことや流行りの研究について話を聞けることはもちろんのこと、研究内容が近い方々を中心に知り合いが増えることは学会発表に参加する魅力の一つであると思っています。最近では、各学会の若手の会に参加したこともあり、学生の方々の知り合いも増えてきて嬉しく思っています。昨年度は海洋生物シンポジウムに参加しましたが、今後は海洋生物シンポジウムに加えてJpGUにも参加する予定です。宜しくお願い致します。